

補装具調査の結果（概要）について

国立障害者リハビリテーションセンター研究所
我澤 賢之

○ 調査結果の概要（回収率と調査の有効性等）について

	調査対象数	回答数	回収率	有効回答数	有効回答率
1. 義肢等 (義肢、装具、座位保持装置)	599	174	29%	71 人件費部分	12%

	調査対象数	回答数	回収率	有効回答数	有効回答率
2. 義肢等完成用部品	39	14	36%	13	33%

3. その他補装具	調査対象数	回答数	回収率	有効回答数	有効回答率
補聴器	114	31	27%	31	27%
車いす	62	15	24%	15	24%
電動車いす	45	4	9%	4	9%
重度障害者用意思伝達装置	45	7	16%	7	16%
盲人安全つえ	55	11	20%	11	20%
義 眼	2	1	50%	0	0%
眼 鏡	8	1	13%	0	0%
座位保持いす	54	5	9%	5	9%
起立保持具	54	5	9%	5	9%
歩 行 器	59	10	17%	10	17%
頭部保持具	54	5	9%	5	9%
排便補助具	54	5	9%	5	9%
歩行補助つえ	61	9	15%	9	15%

(1) 義肢・装具・座位保持装置（以下、「義肢等」という。）

義肢等については、有効回答率が低く、全体として十分な分析が出来なかった。しかしながら、人件費部分については、得られたデータの中から分析するとプラス方向の傾向が見受けられた。また、素材費部分は、データが極端に少ないため十分な分析が出来なかったが、調査項目につ

いて、さらに補足が必要ということが判明した。

(2) 義肢等完成用部品

○ 回答が得られた部品数について

- ・ 1,494 点（国内製造部品 768 点、輸入部品 726 点。現行登録部品の 45%。）
- ・ これらの部品の販売価格、原価、販売数量のデータを得た。

※ただし、これらの部品のうち、447 点（32%）の出荷数が 0 であったことから、以下の分析は、この 447 点を除いた部品（1,047 点）で行った。

○ 推定申請価格と実販売価格との差について

- ・ 202 点（20%）の部品において、推定申請価格の 101%以上の価格で販売が行われていた。
- ・ 実販売価格の推定申請価格に対する平均比率（販売金額で重みをつけた加重平均）は、102%であった。

○ 原価率について

- ・ 平均的にはおおむね妥当な数値と考えられる。
（国内製造部品…平均 63%、輸入部品…平均 55%。）

○ 「申請価格で販売すると原価率が極めて高くなる部品」の実販売価格の設定について

- ・ 製造（輸入）事業者は、以下のいずれかの対応をとっていることが示唆された。

a) 義肢等製作事業者への販売価格が概ね申請価格以下の事業者：8 事業者

b) 義肢等製作事業者への販売価格が申請価格以上の事業者：5 事業者

○ 事業採算面について

- ・ 平均的には一定の黒字を確保できていることが示唆された。

(3) 義肢等以外の補装具

義肢等以外の補装具については、有効回答数及び有効回答率が十分でないことから、今回得られたデータからは十分な分析が出来なかった。